

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 国語 科目 文学国語

教科：国語

科目：文学国語

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～F組

教科担当者：（A組：松田）

（B組：松田）

（C組：松田）

（D組：小林・岸川）

（E組：小林・岸川）

（F組：小林・岸川）

使用教科書：（筑摩書房 『文学国語』）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】的確な読解に必要な語彙力を身につけ、文章を的確に読むために活用する。

【思考力、判断力、表現力等】読解した内容に基づき、自らの考えを論理的に構築し、的確に言語で表現する。

【学びに向かう力、人間性等】自分の考えをよりの確に伝えるものにするために、構成や展開、表現方法を工夫し続ける。

科目 文学国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
文学作品の読解に必要な語彙の知識や技能を身に付ける。文学史の流れとしてとらえ、作品が成立した時代背景の知識を得る。	作品が成立した時代背景を意識しながら読解を深める。論理的に思考して自らの意見を構築し、他者と関わりあうことで伝え合う力を高め、自分の思いや考えをさらに広げたり深めたりする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとしたり、自分の意見をより伝わりやすいものに磨き上げていく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	能	配当 時数
		話・聞	書・読					
<p>「山月記」（中島敦）</p> <p>【知識及び技能】 ・本文中の常用漢字や語句・語彙を正しく理解する。 ・文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 ・作品に関連する文学史的事項について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・文学史的事項を関連させながら、作品を読解する。 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとする。 ・作品の描写から自分なりの読みを考え、他者に説明しようとする。 ・「人虎伝」との比較を行い、作者なりの工夫と意図を説明しようとする。</p>	<p>・登場人物が経験したことについて、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・作品の出典となった作品を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・語彙を豊かにし、正しく活用する。 ・読書の意義と効用を理解する。</p> <p>・教材…「山月記」（中島敦） ・一人1台端末の活用</p>	○	○	<p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・作品に関連する文学史的事項を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品に関連する文学史的事項を踏まえて読解に活かしている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとしている。 ・作品の描写から自分なりの読みを考えて、他者に的確に説明しようとしている。 ・「人虎伝」との比較を行い、作者による工夫とその意図について説明しようとしている。</p>	○	○	○	12
定期考査				<p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・作品に関連する文学史的事項を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品に関連する文学史的事項を踏まえて読解に活かしている。</p>	○	○		1
<p>「バイリンガリズムの政治学」（今福龍太）</p> <p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 ・主張と論拠、個別の具体的な情報と一般化された抽象的な情報、推論の仕方など、情報の扱い方について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 ・道路標識を取り上げた文章を読み、非言語による表現について考察を深める。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとする。 ・身近にある「非言語による表現」を取り上げ、本文との相違点についてまとめようとする。</p>	<p>・非言語による表現について述べた文章を読み、具体例を用いながら論じる叙述の方法を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・自分の考えや事柄を的確に伝えるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫する。 ・非言語による表現について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・調べたことを整理して、説明資料にまとめめる。 ・語彙数を増やし、的確に活用し表現するために活用する。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解する。 ・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。</p> <p>・教材…バイリンガリズムの政治学（今福龍太） ・一人1台端末の活用 等</p>	○	○	<p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・主張と論拠、推論の仕方など、情報の扱い方について理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・道路標識の具体例を踏まえ、非言語による表現について論じる叙述の方法を把握している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、論理の展開を分析しようとしている。 ・身近にある「非言語による表現」を取り上げ、本文との相違点についてまとめようとしている。</p>	○	○	○	6
<p>「神様」（川上弘美）</p> <p>【知識及び技能】 ・本文中の常用漢字や語句・語彙を正しく理解する。</p>	<p>・登場人物が経験したことについて、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。</p>			<p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また小説の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。</p>				

<p>・小説の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品が展開されている場や、登場人物の特徴を的確に読み取り、まとめる。 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとする。 ・作品の描写から自分なりの読みを考え、他者に説明しようとする。 ・「神様2011」との比較を行い、作者なりの工夫と意図を説明しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・「神様」と「神様2011」を読み、両者を比較しながら自分の意見や考えを論述する。 ・語彙を豊かにし、正しく活用する。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・教材…「神様」（川上弘美） ・一人1台端末の活用 	○ ○	<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品が展開されている場や、登場人物の特徴を的確に読み取り、まとめている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとしている。 ・作品の描写から自分なりの読みを考えて、他者に的確に説明しようとしている。 ・「神様2011」との比較を行い、作者による工夫とその意図について説明しようとしている。 	○ ○ ○	6
定期考査			<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・主張と論拠、推論の仕方など、情報の扱い方について理解している。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・道路標識の具体例を踏まえ、非言語による表現について論じる叙述の方法を把握している。 ・作品が展開されている場や、登場人物の特徴を的確に読み取り、まとめている。 	○ ○	1
<p>「こころ」（夏目漱石）</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の常用漢字や語句・語彙を正しく理解する。 ・小説の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 ・作品に関連する文学史的事項について理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に関連する文学史的事項を関連させながら、作品を読解する。 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとする。 ・作品の描写から自分なりの読みを考え、他者に説明しようとする。 ・教科書掲載範囲以外の本文を踏まえて作品を読解しようとしている。 ・近代的自我の視点から登場人物をとらえ、説明しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物が経験したことについて、文章構成や時代背景をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・語彙を豊かにし、正しく活用する。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・教材…「こころ」（夏目漱石） ・一人1台端末の活用 	○ ○	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また小説の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・作品に関連する文学史的事項を理解している。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品に関連する文学史的事項を踏まえて読解に活かしている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとしている。 ・作品の描写から自分なりの読みを考えて、他者に的確に説明しようとしている。 ・教科書掲載範囲以外の本文を踏まえて作品を読解しようとしている。 ・近代的自我の視点から登場人物をとらえ、説明しようとしている。 	○ ○ ○	12

<p>定期考査</p>			<p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また小説の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・作品に関連する文学史的事項を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品に関連する文学史的事項を踏まえて読解に活かしている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとしている。 ・作品の描写から自分なりの読みを考えて、他者に的確に説明しようとしている。 ・教科書掲載範囲以外の本文を踏まえて作品を読解しようとしている。 ・近代的自我の視点から登場人物をとらえ、説明しようとしている。</p>	○ ○	1
<p>「ころ」(夏目漱石)</p> <p>【知識及び技能】 ・本文中の常用漢字や語句・語彙を正しく理解する。 ・小説の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 ・作品に関連する文学史的事項について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・作品に関連する文学史的事項を関連させながら、作品を読解する。 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとする。 ・作品の描写から自分なりの読みを考え、他者に説明しようとする。 ・教科書掲載範囲以外の本文を踏まえて作品を読解しようとしている。 ・近代的自我の視点から登場人物をとらえ、説明しようとする。</p>	<p>・登場人物が経験したことについて、文章構成や時代背景をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・語彙を豊かにし、正しく活用する。 ・読書の意義と効用を理解する。</p> <p>・教材…「ころ」(夏目漱石) ・一人1台端末の活用</p>		<p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また小説の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・作品に関連する文学史的事項を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品に関連する文学史的事項を踏まえて読解に活かしている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとしている。 ・作品の描写から自分なりの読みを考えて、他者に的確に説明しようとしている。 ・教科書掲載範囲以外の本文を踏まえて作品を読解しようとしている。 ・近代的自我の視点から登場人物をとらえ、説明しようとしている。</p>		12
<p>定期考査</p>			<p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また小説の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・作品に関連する文学史的事項を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品に関連する文学史的事項を踏まえて読解に活かしている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品全体をとおして興味を持った点について、自分なりの考えを持ち、表現しようとしている。 ・作品の描写から自分なりの読みを考えて、他者に的確に説明しようとしている。 ・教科書掲載範囲以外の本文を踏まえて作品を読解しようとしている。 ・近代的自我の視点から登場人物をとらえ、説明しようとしている。</p>	○ ○	1
<p>「文学の仕事」(加藤周一)</p> <p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解する。 ・主張と論拠、個別の具体的な情報と一般化された抽象的な情報、推論の仕方など、情報の扱い方について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 ・文学について取り上げた文章を読み、自己と他者の関わりについて多面的に考察を深める。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとする。 ・身近にある「人間と文学の関わり合い」を取り上げ、本文との共通点や相違点についてまとめようとする。</p>	<p>・文学と人間の関わりについて述べた文章を読み、具体例を用いながら論じる叙述の方法を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫する。 ・文学と人間のかかわりについて述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・調べたことを整理して、説明資料にまとめる。 ・語彙数を増やし、的確に活用し表現するために活用する。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解する。 ・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。</p> <p>・教材…文学の仕事(加藤周一) ・一人1台端末の活用 等</p>	○ ○	<p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・主張と論拠、推論の仕方など、情報の扱い方について理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・人間と文学の関係性について論じる叙述の方法や特徴を把握している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、論理の展開を分析しようとしている。 ・身近にある「人間と文学の関わり合い」を取り上げ、本文との共通点や相違点についてまとめようとしている。</p>	○ ○ ○	7



高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：3 単位
 対象学年組：第2学年 A組～F組
 教科担当者：(A組：吉田) (B組：吉田) (C組：吉田) (D組：松田) (E組：松田) (F組：松田)
 使用教科書：(第一学習社 『高等学校 古典探究 古文編』『高等学校 古典探究 漢文編』)

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】的確な読解に必要な語彙力を身につけ、文章を的確に読むために活用する。
- 【思考力、判断力、表現力等】読解した内容に基づき、自らの考えを論理的に構築し、的確に言語で表現する。
- 【学びに向かう力、人間性等】自らの考えをよりの確に伝えるものにするために、構成や展開、表現方法を工夫し続ける。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
文学作品の読解に必要な語彙の知識や技能を身に付ける。文学史の流れとしてとらえ、作品が成立した時代背景の知識を得る。	作品が成立した時代背景を意識しながら読解を深める。論理的に思考して自らの意見を構築し、他者と関わりあうことで伝え合う力を高め、自分の思いや考えをさらに広げたり深めたりする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		語	書	読					
<p>1 学 期</p> <p>説話『古今著聞集』・『沙石集』</p> <p>【知識及び技能】 ・本文における、古文読解に必要な語句・語彙を理解し、語彙力をつける。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現について理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・古典の文章に慣れ、ストーリー展開を具体的に想起しながら読む。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品が持つ文化的背景を踏まえながら、内容を解釈する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に説話を読み、互いに考えたことや感じたことを述べあう。</p>	<p>・古典の文章に慣れるとともに、ストーリー展開や人間描写を読み取る。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語彙力をつける。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。</p> <p>・『古今著聞集』・『沙石集』 ・一人1台端末の活用</p>	○			<p>【知識及び技能】 ・本文中に用いられる主な常用漢字や語句・語彙、また文章の効果的な組立て方や接続の仕方について、その構造や特色などを理解している。 ・作品に関連する文学史の事項を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の考えや事柄を的確に伝え、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫している。 ・作品に関連する文学史の事項を踏まえて読解に活かしている。</p>	○	○	○	12
<p>漢詩の鑑賞 中国の詩</p> <p>【知識及び技能】 ・表現の技法とその効果について理解する。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・漢詩の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまり、漢詩や漢文特有の表現などについて理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明する。</p>	<p>・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・作品に表れているものの方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・漢詩のきまりを理解する。</p> <p>・教材 漢詩の鑑賞 中国の詩 ・一人1台端末の活用 等</p>	○			<p>【知識及び技能】 ・表現の技法とその効果について理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・漢詩の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまり、漢文や漢詩特有の表現などについて理解を深めている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取っている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。</p>	○	○	○	9
<p>定期考査</p>					<p>【知識及び技能】 ・読解に必要な古文・漢文の語彙やその文化的背景に関する知識を身に付けている。 ・言葉が担う文化の継承という側面を意識しながら、古語を読むうえでの必要となる、歴史的仮名遣い、活用、品詞に関する知識を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・各場面の情景描写や登場人物に関する叙述を読み取りながら、登場人物の心情の変化を読み取っている。 ・本文を読んで理解したことを、読み手の理解が得られるように構成や展開を工夫しながら文章で表現している。 ・古語に関する基本知識を踏まえ、今後の学習に見通しを持っている。</p>	○	○		1

<p>名家の文章 韓愈『雜説』</p> <p>【知識及び技能】 ・漢文訓読に必要な語彙力をつける。 ・漢文の世界に親しみ、正しく読むために必要な訓読のきまり、漢文特有の表現などについて理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめる。</p>	<p>・漢文の訓読に慣れる。 ・現在使われている言葉には漢文に由来するものがあることを知る。 ・文章の特徴を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。</p> <p>・教材 雑説 ・一人1台端末の活用</p>			<p>【知識及び技能】 ・漢文訓読に必要な語彙力をつけている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを理解している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。</p>	○	○	○	6
<p>随筆(口) 清少納言『枕草子』</p> <p>【知識及び技能】 ・本文における、古文読解に必要な語句、語彙を理解し、語彙力をつける。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現について理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・本文中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語という文章の特徴を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って作中の和歌の果たす意味を捉える。</p>	<p>・「枕草子」の文学史的知識を知る。 ・中宮定子と清少納言との関係性を理解する。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・各章段について、他作品の同類話と読み比べ、解釈を深める。 ・語彙力をつけ、文法事項を正しく理解する。 ・作品の文学史的事項や、歴史的・文化的背景を理解する。</p> <p>・教材…枕草子 ・一人1台端末の活用</p>	○		<p>【知識及び技能】 ・古文の読解に必要な語彙やその文化的背景に関する知識を身に付けている。 ・古文を正しく読むために、必要な語彙や文法に関する知識を活用することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・本文中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解している。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・枕草子の世界に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。</p>	○	○	○	12
<p>定期考査</p>				<p>【知識及び技能】 ・古文・漢文の読解に必要な語彙やその文化的背景に関する知識を身に付けている。 ・古文・漢文を正しく読むために、必要な語彙や文法に関する知識を活用することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・各場面の情景描写や登場人物に関する叙述を読み取り人物造形を読み取ることができる。 ・本文を読んで理解したことを、読み手の理解が得られるように構成や展開を工夫しながら文章で表現している。</p>	○	○		1
<p>物語(口) 大鏡</p> <p>【知識及び技能】 ・本文における、古文読解に必要な語句、語彙を理解し、語彙力をつける。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現について理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・歴史物語を読み、政治的な争いを背景とする人間のありようや心理を理解する。 ・歴史物語という文章の特徴を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れている歴史観を読み取り、自分の考えを広げたり深めたりする。</p>	<p>・指導事項</p> <p>・「大鏡」やその周辺の作品に関する、文学史的な知識を身につける。 ・この作品の時代背景や、藤原家・紫式部などに関して学び、今後の学習に役立てる。 ・助詞と助動詞の知識を身につける。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として敬語について文語のきまりを理解する。</p> <p>・教材…大鏡 ・一人1台端末の活用 等</p>			<p>【知識及び技能】 ・古文の読解に必要な語彙やその文化的背景に関する知識を身に付けている。 ・古文を正しく読むために、必要な語彙や文法に関する知識を活用することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・歴史物語を読み、政治的な争いを背景とする人間のありようや心理を理解している。 ・歴史物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れている歴史観を読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。</p>	○	○	○	12
<p>項羽と劉邦 鴻門の会 (史記)</p> <p>【知識及び技能】 ・漢文訓読に必要な語彙力をつける。 ・漢文の世界に親しみ、正しく読むために必要な訓読のきまり、漢文特有の表現などについて理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・やや長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・登場人物の言動を粘り強く読み取り、そこに表れたもの見方、感じ方、考え方を捉える。</p>	<p>・長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・漢文の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。</p> <p>・教材 鴻門の会 (史記) ・一人1台端末の活用</p>	○		<p>【知識及び技能】 ・漢文訓読に必要な語彙力をつけている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取っている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・登場人物の言動を読み取り、そこに表れたもの見方、感じ方、考え方を捉えようとしている。</p>	○	○	○	6

<p>定期考査</p>				<p>【知識及び技能】 ・古文・漢文の読解に必要な語彙やその文化的背景に関する知識を身に付けている。 ・古文・漢文を正しく読むために、必要な語彙や文法に関する知識を活用することができる。 ・漢文を読むために必要な訓読のきまり、漢文特有の表現などについて理解を深めている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・各場面の情景描写や登場人物に関する叙述を読み取り人物造形を読み取ることができる。 ・本文を読んで理解したことを、読み手の理解が得られるように構成や展開を工夫しながら文章で表現している。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字のはたらきと意味、再読文字の種類と読み方を習得する。</p>	○	○	1
<p>物語(二) 『源氏物語』 光る君誕生</p> <p>【知識及び技能】 ・本文における、古文読解に必要な語句・語彙を理解し、語彙力をつける。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現について理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・作り物語を読み、人間のありようや心理描写を読み取り、理解する。 ・作り物語という文章の特徴を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れている主題を読み取り、自分の考えを広げたり深めたりする。</p>	<p>・指導事項 ・「源氏物語」に関する文学史的な知識を身に付ける。 ・作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている貴族社会の人間関係や生き方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として敬語について文語のきまりを理解する。</p> <p>・教材…源氏物語 ・一人1台端末の活用 等</p>		○	<p>【知識及び技能】 ・古文の読解に必要な語彙やその文化的背景に関する知識を身に付けている。 ・古文を正しく読むために、必要な語彙や文法に関する知識を活用することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・作り物語を読み、貴族社会を生きる人間のありようや心理描写を読み取り、理解している。 ・作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れている主題を読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。</p>	○	○	12
<p>項羽と劉邦 四面楚歌 (史記)</p> <p>【知識及び技能】 ・漢文訓読に必要な語彙力をつける。 ・漢文の世界に親しみ、正しく読むために必要な訓読のきまり、漢文特有の表現などについて理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・やや長めの史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・登場人物の言動を粘り強く読み取り、そこに表れたものの見方、感じ方、考え方を捉える。</p>	<p>・史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・漢文の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。</p> <p>・教材 四面楚歌 (史記) ・一人1台端末の活用</p>		○	<p>【知識及び技能】 ・漢文訓読に必要な語彙力をつけている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・史伝を読んで登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取っている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・登場人物の言動を読み取り、そこに表れたものの見方、感じ方、考え方を捉えようとしている。</p>	○	○	6
<p>定期考査</p>				<p>【知識及び技能】 ・古文の読解に必要な語彙やその文化的背景に関する知識を身に付けている。 ・古文を正しく読むために、必要な語彙や文法に関する知識を活用することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解している。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。</p>	○	○	1
<p>物語(二) 『源氏物語』 光る君誕生</p> <p>【知識及び技能】 ・本文における、古文読解に必要な語句・語彙を理解し、語彙力をつける。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現について理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・作り物語を読み、人間のありようや心理描写を読み取り、理解する。 ・作り物語という文章の特徴を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れている主題を読み取り、自分の考えを広げたり深めたりする。</p>	<p>・指導事項 ・登場人物の関係性を理解し、文法事項を学びつつ本文を読解する。 ・「源氏物語」に関する文学史的な知識を身に付ける。 ・作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている貴族社会の人間関係や生き方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として敬語について文語のきまりを理解する。</p> <p>・教材…源氏物語 ・一人1台端末の活用 等</p>		○	<p>【知識及び技能】 ・古文の読解に必要な語彙やその文化的背景に関する知識を身に付けている。 ・古文を正しく読むために、必要な語彙や文法に関する知識を活用することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・作り物語を読み、貴族社会を生きる人間のありようや心理描写を読み取り、理解している。 ・作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れている主題を読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。</p>	○	○	13

3 学 期	諸家の思想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 儒家・道家・法家の思想を読んで要旨を押さえ、思想家の考えや主張を読み取る。 ・ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・ 訓読のきまりを理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】 ・ 漢文訓読に必要な語彙力をつけている。 ・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 儒家・道家・法家の思想を読んで要旨を押さえ、思想家の考えや主張を読み取っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 諸家の思想を読み取り、そこに表れたものの見方、感じ方、考え方を捉えようとしている。 	○ ○ ○	12	
	定期考査					<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】 ・ 古文の読解に必要な語彙やその文化的背景に関する知識を身に付けている。 ・ 古文を正しく読むために、必要な語彙や文法に関する知識を活用することができる。 ・ 古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 各場面の情景描写や登場人物に関する叙述を読み取り人物造形を読み取ることができる。 ・ 本文を読んで理解したことを、読み手の理解が得られるように構成や展開を工夫しながら文章で表現している。 ・ 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字のはたらきと意味、再読文字の種類と読み方を習得する。 		1
								合計	105

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

地理歴史 科目 プレ世界史探究

教科：地理歴史 科目：プレ世界史探究

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 C・D・E・F 組

使用教科書：詳説世界史〔山川出版社〕

使用教材：アカデミア世界史〔浜島書店〕、山川一問一答世界史〔山川出版社〕

教科 プレ世界史探究 の目標： 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 プレ世界史探究 の目標： 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身に付けている。また多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

指導内容	評価規準			評価方法	知	思	態	配当 時数					
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度										
1 学期	第1章 文明の成立と古代文明的特質 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明	オリエント文明、インダス文明、中華文明などの古代文明の歴史的特質に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。	オリエント文明、インダス文明、中華文明などの古代文明の歴史的特質に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。	オリエント文明、インダス文明、中華文明などの古代文明の歴史的特質に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。	定期考査 小テスト 提出物	○	○	○	10				
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 2 秦・漢帝国	秦・漢と遊牧国家、隋・唐と近隣諸国の動向など東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。	秦・漢と遊牧国家、隋・唐と近隣諸国の動向など東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。	秦・漢と遊牧国家、隋・唐と近隣諸国の動向など東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。						○	○	○	4
	定期考査									○	○	○	1
	3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成									○	○	○	7
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開	仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家の展開など、南アジアと東南アジアの歴史的特質に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。	仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家の展開など、南アジアと東南アジアの歴史的特質に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。	仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家の展開など、南アジアと東南アジアの歴史的特質に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。						○	○	○	5
定期考査				○	○	○	1						
2 学期	第4章 西アジアと地中海周辺の諸国家の形成 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展	西アジアと地中海周辺の諸国家の展開など、西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。	西アジアと地中海周辺の諸国家の展開など、西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。	西アジアと地中海周辺の諸国家の展開など、西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。	定期考査 小テスト 提出物	○	○	○	12				
	定期考査									○	○	○	1
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成	イスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成など、西アジアと地中海周辺、ヨーロッパの歴史的特質に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。	イスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成など、西アジアと地中海周辺、ヨーロッパの歴史的特質に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。	イスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成など、西アジアと地中海周辺、ヨーロッパの歴史的特質に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。						○	○	○	10
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向	西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播など、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。	西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播など、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。	西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播など、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。						○	○	○	5
	定期考査									○	○	○	1

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

地理歴史 科目 プレ地理探究

教科： 地理歴史 科目： プレ地理探究

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 E 組 F 組 選択

使用教科書：（高等学校新詳地理探求〔帝国書院〕、新詳高等地図〔帝国書院〕）

使用教材：（新編地理資料2026〔とうほう〕）

教科 プレ地理探究 の目標： 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 プレ地理探究 の目標： 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

	指導内容	評価規準			評価方法	知	思	態	配当 時数
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
1 学 期	第1部 第1章 自然環境 1節 地形	世界の地形と人々の生活についての基礎知識を身につけたか。地形について、地図・図・グラフを読み解くための知識や技能を身につけたか。	地形の成因、地形が生活に及ぼす影響について、理解、分析、考察する力が養えたか。	身近な地形について、地形と生活がどのような関係にあるか、知ろうとする態度を持てたか。	定期テスト 小テスト	○	○	○	7
	第1部 第1章 自然環境 2節 気候	特殊な地形、気候の成因、気候の成り立ち、生態系との関係と人々の生活についての基礎知識を身につけたか。これに関わる地図・図・グラフを読み解くための知識や技能を身につけたか。	特殊な地形、気候の成因、気候の成り立ち、生態系との関係について、理解、分析、考察する力を養えたか。	特殊な地形、気候の成因、気候の成り立ち、生態系との関係をふまえて、人々の生活との関係を知ろうとする態度を持てたか。	定期テスト 小テスト	○	○	○	6
	定期考査					○	○	○	1
	第1部 第1章 自然環境 2節 気候	世界の気候と人々の生活についての基礎知識を身につけたか。気候分布などの気候に関する地図・図・グラフを読み解くための知識や技能を身につけたか。	気候の成因、気候が生活に及ぼす影響について、理解、分析、考察する力が養えたか。	気候と気候変動、異常気象の発生をふまえて、人々の生活との関係を知ろうとする態度を持てたか。	定期テスト 小テスト	○	○	○	7
	第1部 第1章 自然環境 3節 日本の自然環境 4節地球環境問題	日本の地形や気候の学習をふまえて、災害と防災、地球環境に関する基礎知識を身につけたか。ハザードマップなどを読み解くための知識や技能を身につけたか。	日本の自然環境、災害の原因と起こりうる災害の内容、地球環境問題などについて、理解、分析、考察する力を養えたか。	日本の自然環境、身近で起こりうる災害、地球環境が及ぼす影響について自ら考え、防災や環境問題への対応をとろうとする態度を持てたか。	定期テスト 小テスト	○	○	○	5
定期考査					○	○	○	1	
2 学 期	第1部 第2章 資源と産業 1節 農林水産業 1節 農林水産業	農林水産業についての基礎知識を身につけたか。これに関する地図やグラフを読み解くための知識や技能を身につけたか。	農林水産業の現状と課題について、人の生活と関連させて理解、分析、考察する力を養えたか。	農林水産業の現状と今後について、展望を世界規模の中でとらえ、どう行動していくか、自らの課題として考えていく態度を持てたか。	定期テスト 小テスト 提出物、夏季課題	○	○	○	7
	第1部 第2章 資源と産業2節 3節 エネルギー・鉱産資源 食料問題	食料問題、エネルギーと鉱産資源についての基礎知識を身につけたか。これに関する地図やグラフを読み解くための知識や技能を身につけたか。	食料問題、エネルギー・鉱産資源の現状と課題について、人の生活と関連させて理解、分析、考察する力を養えたか。	食料問題、エネルギー・鉱産資源の現状と今後について、展望を世界規模の中でとらえ、どう行動していくか、自らの課題として考えていく態度を持てたか。	定期テスト 小テスト 提出物、夏季課題	○	○	○	6
	定期考査					○	○	○	1
	第1部 第2章 資源と産業 4節 資源エネルギー問題 5節 工業	資源エネルギー問題と工業についての基礎知識を身につけたか。これに関する地図やグラフを読み解くための知識や技能を身につけたか。	資源・エネルギーの課題、工業の立地と地域について、人の生活と関連させて理解、分析、考察する力を養えたか。	資源・エネルギーの課題、工業の立地と地域の現状と今後について、展望を世界規模の中でとらえ、どう行動していくか、自らの課題として考えていく態度を持てたか。	定期テスト 小テスト 提出物、夏季課題	○	○	○	7

| |-----|

|-----|

| | | | |

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（ 数学Ⅱ 数研出版 ）

使用教材：（ 完成ノート（サクシード）, WinSTEP, 青チャート ）

教科 数学の目標： 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱの目標： 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

指導内容	評価規準			評価方法	知	思	態	配当 時数																			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組み態度																								
第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解	<ul style="list-style-type: none"> ○3次式の展開の公式を利用できる。 ○3次式の因数分解の公式を利用できる。 ○式の形に着目して変形し、3次式の因数分解の公式を適用できる形にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学Ⅰで既習の2次式の展開公式を利用して、3次式の展開公式を導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。 理解・学修の過程を振り返るとともに、数学を活用しようとしている。 問題解決に当たって、粘り強く考え、解決策を導こうとしている。 	知識・技能 定期テスト・解き直しレポート(期限厳守) 思考・判断・表現 定期テスト・解き直し(期限厳守) 主体的に学習に取り組む態度 完成ノート・WinSTEP・青チャート	○	○	○																				
2. 二項定理	<ul style="list-style-type: none"> ○$(a+b)^n$の展開式からパスカルの三角形を導き、パスカルの三角形の性質を理解する。 ○二項定理の導き方を理解し、二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ○二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○二項定理とパスカルの三角形を結び付けて考察することができる。 ○二項定理を等式の証明に活用することができる。 	○						○	○																	
3. 多項式の割り算	<ul style="list-style-type: none"> ○多項式の割り算の計算方法を理解している。 ○割り算の等式を理解し、利用することができる。 ○2種類以上の文字を含む多項式の割り算を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多項式の割り算の結果を等式で表して考察することができる。 ○2種類以上の文字を含む多項式の割り算を、1つの文字に着目することで、1文字の場合と同様に考えることができる。 										○	○	○													
4. 分数式とその計算	<ul style="list-style-type: none"> ○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ○分数式の約分、四則計算ができる。 ○繁分数式を簡単にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式として表現することができる。 														○	○	○									
5. 恒等式	<ul style="list-style-type: none"> ○恒等式の性質を理解し、恒等式となるように係数を決定することができる。 ○分数式の恒等式について、分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 ○2つ以上の文字に関する恒等式の係数を決定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1文字の恒等式の知識をもとに、2つ以上の文字に関する恒等式について考察することができる。 																		○	○	○					
第2節 等式と不等式の証明 6. 等式の証明	<ul style="list-style-type: none"> ○$A=B$ と $A-B=0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。 ○比例式を $=k$ において処理することができる。 ○連比と等式から未知数を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○与えられた条件式の利用方法を考察することができ、適した方法を用いることによって等式を証明することができる。 																						○	○	○	
7. 不等式の証明	<ul style="list-style-type: none"> ○実数の大小関係や実数の平方の性質を利用して、不等式や $a>b, c>d \Rightarrow a+c>b+d$ などを証明することができる。 ○正の数の場合、平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ○絶対値の性質を利用して、絶対値記号を含む不等式を証明することができる。 ○相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不等式 $A > B$ を証明するには $A-B > 0$ を示せばよいと考察することができる。 ○不等式の証明で、等号が成り立つ場合について考察できる。 ○不等式の証明に実数の平方の性質を利用できるように、式変形を考察することができる。 																									
第2章 複素数と方程式																											

		<p>○複素数の表記を理解し、複素数、複素数の相等の定義を理解している。</p> <p>○複素数の四則計算ができる。</p> <p>○負の数の平方根を理解し、それらを含む式の計算を、i を用いて処理することができる。</p>	<p>○有理数から実数へ数の範囲を拡張する必要性を理解し、複素数を考察することができる。</p> <p>○複素数の範囲で、負の数の平方根を考察することができる。</p>							
	1. 複素数 (1.5)									
	2. 2次方程式の解と判別式	<p>○2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。</p> <p>○判別式を利用して、2次方程式の解を判別することができる。</p>	<p>○2次方程式の解について、実際に解を求めず、判別式で解の種類を判別することができることを理解している。</p>							
	3. 解と係数の関係	<p>○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。</p> <p>○対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。</p> <p>○2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。</p> <p>○和と積が与えられた2数を、2次方程式を解くことにより求めることができる。</p>	<p>○やや複雑な2数を解とする2次方程式がどのようなものであるか、解と係数の関係を利用して考察することができる。</p> <p>○異なる2つの実数 α、β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。</p> <p>○2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して考察することができる。</p>							
	4. 剰余の定理と因数定理	<p>○剰余の定理を利用して、多項式を1次式で割ったときの余りを求めることができる。</p> <p>○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。</p> <p>○$P(k)=0$ である k の値の求め方を理解し、高次式を因数分解できる。</p>	<p>○多項式 $P(x)$ が $x-k$ で割り切れることを式で表現することができる。</p>							
1 学 期	定期考査									○ ○ 1
	5. 高次方程式	<p>○因数分解や因数定理を利用することにより、高次方程式を解くことができる。</p> <p>○高次方程式の既知の解から、方程式の係数を決定することができる。</p> <p>○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。</p>	<p>○高次方程式を、1次・2次方程式に帰着して考察することができる。</p> <p>○高次方程式が解 α をもつことを、式で表現することができる。</p> <p>○「方程式が虚数 α を解にもつ α も解である」ことの証明に、共役な複素数の性質がどのように使われるかを考察することができる。</p>	<p>自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。</p> <p>理解・学修の過程を振り返るとともに、数学を活用しようとしている。</p> <p>問題解決に当たって、粘り強く考え、解決策を導こうとしている。</p>						
	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線									
	1. 直線上の点	<p>○線分の外分点の公式を適用する際に、分母を正にして計算することができる。</p> <p>○数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。</p>	<p>○内分点の求め方と同様の考え方で外分点を考察することができる。</p>							
	2. 平面上の点 (2)	<p>○座標平面上において、2点間の距離が求められる。</p> <p>○距離の公式を利用して、図形の性質を証明できる。</p> <p>○座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。</p> <p>○三角形の重心の座標の公式を理解している。</p>	<p>○図形の性質を証明する際に、座標軸を適切に設定することで、計算が簡単になるように工夫することができる。</p> <p>○点の座標を求めるのに利用できる適切な図形の性質を判断でき、図形的条件 (点対称、線対称など) を式で表現することができる。</p>							
	3. 直線の方程式	<p>○直線が x、y の1次方程式で表されることを理解している。</p> <p>○x 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形で表せないことを理解している。</p> <p>○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。</p>	<p>○1点を通る直線の方程式から、異なる2点を通る直線の方程式に拡張して考察することができる。</p>							
	4. 2直線の関係	<p>○2直線の平行・垂直条件を理解して、それを利用できる。</p> <p>○連立方程式の実数解の個数と、2直線の共有点の個数の関係を理解している。</p> <p>○$kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して、直線の方程式を求めることができる。</p> <p>○点と直線の距離の公式を理解して、それを利用できる。</p>	<p>○連立方程式の解の状況を、2直線の位置関係から考察することができる。</p> <p>○2直線の交点を通る直線を、方程式を用いて考察することができる。</p> <p>○直線に関して対称な点の座標について、2直線の関係を用いて考察することができる。</p> <p>○直線の方程式を利用して、図形の性質を証明することができる。</p>							
	第2節 円									
	5. 円の方程式	<p>○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。</p> <p>○x、y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。</p> <p>○3点を通る円の方程式を求めることができる。</p>	<p>○円の方程式が x、y の2次方程式で表されることを理解し、x、y の2次方程式が、常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。</p> <p>○3点を通る円と、この3点を頂点とする三角形との関係を考察することができる。</p>							○ ○ ○ 17
	6. 円と直線	<p>○円と直線の共有点の座標を求めることができる。</p> <p>○円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。</p> <p>○円の接線の公式を理解して、それを利用できる。</p> <p>○円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。</p>	<p>○円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。</p> <p>○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。</p> <p>○直線が円によって切り取られてできる線分の長さを、円の中心と直線の距離を用いて考察することができる。</p>							

<p>7. 2つの円</p> <p>第3節軌跡と方程式</p> <p>8. 軌跡と方程式</p> <p>9. 不等式の表す領域</p>	<p>○2つの円の位置関係を調べることができる。</p> <p>○2円の中心間の距離と半径の関係を利用して、ある円と外接・内接する円の方程式を求めることができる。</p> <p>○$kF(x, y)+G(x, y)=0$の形を利用して、円の方程式を求めることができる。</p> <p>○直線や円などを、条件を満たす点全体の集合として考えることができる。</p> <p>○軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。</p> <p>○媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。</p> <p>○不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。</p> <p>○図で与えられた領域を不等式で表すことができる。</p> <p>○領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。</p> <p>○領域を利用して、命題を証明することができる。</p>	<p>○2つの円の位置関係を、2円の中心間の距離と半径の関係で考察することができる。</p> <p>○2つの円の交点の座標や、交点を通る円について、2つの円の方程式を適切に変形して考察することができる。</p> <p>○平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。</p> <p>○軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。</p> <p>○点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。</p> <p>○変数x, yについての不等式を満たす点(x, y)全体の集合がどのような図形であるかを考察することができる。</p> <p>○条件の真理集合を考えることにより、命題の真偽を真理集合の包含関係として考察することができる。</p>				
<p>定期考査</p>						
<p>第4章 三角関数</p> <p>第1節三角関数</p> <p>1. 一般角と弧度法</p> <p>2. 三角関数</p> <p>3. 三角関数の性質</p> <p>4. 三角関数のグラフ</p> <p>5. 三角関数の応用 (2.5)</p>	<p>○一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を$\alpha+360^\circ \times n$と表したりすることができる。</p> <p>○弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算ができる。</p> <p>○扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。</p> <p>○弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。</p> <p>○単位円周上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。</p> <p>○三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をしたりすることができる。</p> <p>○$-\theta$や$\theta+\pi$などの公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。</p> <p>○三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。</p> <p>○いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。</p> <p>○$y=\sin(k\theta+\alpha)$の形の関数の式を適切に変形して、グラフや周期を考察することができる。</p> <p>○三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。</p> <p>○角が$\theta+\alpha$の形をしている三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。</p> <p>○三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。</p>	<p>○弧の長さで角を図る方法として、弧度法を考察することができる。</p> <p>○三角比の定義を、三角関数の定義に一般化して考察することができる。</p> <p>○三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。</p> <p>○単位円周上の点の動きから、三角関数のグラフを考察することができる。</p> <p>○三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。</p> <p>○三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。</p> <p>○変数をおき換えることで、三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。</p>	<p>自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。</p>		<p>○ ○ ○</p>	<p>16</p>
<p>定期考査</p>						
<p>第2節加法定理</p> <p>6. 加法定理</p> <p>7. 加法定理の応用</p> <p>8. 三角関数の合成</p> <p>第5章 指数関数と対数関数</p> <p>第1節指数関数</p>	<p>○加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。</p> <p>○正接の加法定理を利用して、2直線のなす角の鋭角を求めることができる。</p> <p>○2倍角、半角の公式を利用して、三角関数の値を求めることができる。</p> <p>○2倍角の公式を利用して、等式を証明することができる。</p> <p>○2倍角の公式を利用して、やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。</p> <p>○$\sin\theta+\cos\theta$を$r\sin(\theta+\alpha)$の形に変形する方法(三角関数の合成)を理解している。</p> <p>○合成後の変数のとる値の範囲に注意して、$a\sin x+b\cos x=k$の形の方程式や不等式を解くことができる。</p> <p>○xの関数$y=a\sin x+b\cos x$の式を変形して、関数の最大値・最小値を求めることができる。</p>	<p>○角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。</p> <p>○正接の定義と加法定理を利用して、2直線のなす角を考察することができる。</p> <p>○3倍角の公式を、$3\alpha=2\alpha+\alpha$としてとらえることによって証明することができる。</p> <p>○2倍角の公式を利用して、やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式の角を統一して考察することができる。</p> <p>○$\sin\theta+\cos\theta$の変形にあたり、同じ周期をもつ2つの関数の合成であることを理解している。</p>	<p>自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。</p>	<p>知識・技能 定期テスト・解き直しレポート(期限厳守) 思考・判断・表現 定期テスト・解き直し(期限厳守) 主体的に学習に取り組む態度 完成ノート・WinSTEP・青花チャート</p>	<p>○ ○</p>	<p>1</p>

8. 定積分	<p>○定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。</p> <p>○定積分は定数であることを理解し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。</p> <p>○上端が変数xである定積分で表された関数を微分して処理することができる。</p>	<p>○定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識することができる。</p> <p>○定積分の計算で、分数計算を容易にするための工夫を考察することができる。</p> <p>○上端がxである定積分を、xの関数とらえて問題を解決することができる。</p>				
9. 面積	<p>○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。</p> <p>○上下関係が入れ替わる2曲線で囲まれた面積を求めることができる。</p> <p>○絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。</p> <p>○3次関数のグラフとその接線で囲まれた部分の面積を求めることができる。</p>	<p>○面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいいて考察することができる。</p> <p>○放物線と直線の交点の座標が複雑な値であるとき、放物線と直線で囲まれた部分の面積を、定積分の公式を利用してなどして、工夫して求める方法を考察することができる。</p> <p>○微分や定積分の計算で、$[(x+a)^n]$ の導関数や不定積分の公式を利用してなどして、計算を工夫して行う方法を考察することができる。</p>				
定期考査					○ ○	1
						合計 105

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 理科 科目 化学基礎

教科：理科

科目：化学基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～F組

教科担当者：（A組：鈴木）（B組：鈴木）（C組：鈴木・杉山）（D組：鈴木・柴野）（E組：鈴木）（F組：鈴木）

使用教科書：（改定化学基礎：数研出版） 使用教材：（フォトサイエンス化学図録：数研出版、リードLight化学基礎：数研出版）

教科

理科の目標： 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目

化学基礎の目標： 物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての観察、実験などを行うことを通して、物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	物質とその変化を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

指導項目・内容	評価規準			評価方法	知	思	態	記 時 数
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 2 物質質量	<ul style="list-style-type: none"> 原子の質量の表し方を理解する。 相対質量と原子量について理解する。 物質の質量や物質中の粒子数を、「物質」という新しい単位で示す合理性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相対質量と存在比から原子量を求めたり、相対質量と原子量から、存在比を求めることができる。 原子量を用いて分子質量・式量を求め、物質質量と質量、物質中の粒子数の関係を理解し、換算できる。 アボガドロの法則を理解し、気体の体積・物質質量・粒子数・気体の質量の変換ができる。 気体の密度から、気体の分子量・質量・体積等を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。 理解・学修の過程を振り返るとともに、科学的な考え方を活用しようとしている。 問題解決に当たって、粘り強く考え、解決策を導こうとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題、小テスト、定期考査	○	○	○	6
3 化学反応式と物質質量	<ul style="list-style-type: none"> 反応物と生成物が与えられているとき、分子式や組成式を用いて、化学反応式を書くことができる。 反応物が与えられているとき、起こる化学反応を想定し、化学反応式を書くことができる。 イオン反応式を書くことができる。 様々な反応を化学反応式で表し、化学反応式から、反応に関する物質の物質質量・分子の数・物質の質量・物質の体積を求めることができ、量的な関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応式から、反応に関与する物質の物質質量・分子の数・物質の質量・物質の体積を求めることができる。 反応に関与する物質の物質質量・分子の数・物質の質量・物質の体積を化学反応式から求め、実際に反応させるときの水溶液の量やモル濃度、反応物の量を求め、実験を計画することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。 理解・学修の過程を振り返るとともに、科学的な考え方を活用しようとしている。 問題解決に当たって、粘り強く考え、解決策を導こうとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題、小テスト、定期考査	○	○	○	5
1 学期 定期考査					○	○		1
第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1 純物質と混合物 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	<ul style="list-style-type: none"> 単体と化合物の違い、混合物と純物質の違いを説明することができる。 混合物の分離法（ろ過、蒸留、抽出、再結晶、クロマトグラフィーなど）を理解し、ある混合物を分離するのに適切な分離法を判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 元素の検出方法を、具体例を挙げて説明できる。 代表的な同素体の名称を挙げ、性質の違いについて説明できる。 実験計画を立てて、混合物の分離を行い、予想どおりの分離ができたか考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。 理解・学修の過程を振り返るとともに、科学的な考え方を活用しようとしている。 問題解決に当たって、粘り強く考え、解決策を導こうとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題、小テスト、定期考査	○	○	○	6
第2章 物質の構成粒子 1 原子とその構造 2 イオン 3 周期表	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造と原子核および陽子・中性子・電子の性質を知る。 電子配置の規則性を知り、希ガスが安定な電子配置であることを理解する。 元素の性質と価電子数の関連を理解する。 イオン化エネルギーや電子親和力、原子やイオンの大きさに見られる周期性を理解する。 周期表について理解し、典型元素と遷移元素は、電子配置の違いがあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子番号・質量数の意味を説明できる。 同位体の性質や存在比、放射性同位体の壊変について理解する。 単原子イオンの電子配置を示し、同じ電子配置の希ガスの関係を説明できる。 イオンの生成し易さを、イオン化エネルギーや電子親和力と関連させて説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。 理解・学修の過程を振り返るとともに、科学的な考え方を活用しようとしている。 問題解決に当たって、粘り強く考え、解決策を導こうとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題、小テスト、定期考査	○	○	○	7

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理入門

理科 科目：物理入門 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 A B C D 組

使用教科書：（物理【数研・物理ノ706】）

使用教材：（新課程版セミナー物理基礎+物理【第一学習社】、改訂版リードLightノート物理【数研出版】、フォトサイエンス 物理図録 新課程【数研出版】）

教科 理科の目標：自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理入門の目標：物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

指導内容	評価規準			評価方法	知	思	態	配 当 時 数
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度					
ガイダンス（物理の学習のコツ） 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1. 平面運動の速度・加速度 変位・速度・加速度 2. 落体の運動 自由落下・鉛直投射 水平投射・斜方投射 空気の抵抗 第2章 剛体 1. 剛体の働く力のつり合い 剛体に働く力・力のモーメント 剛体のつり合い 2. 剛体にはたらく力の合力と重心 剛体にはたらく力の合力 偶力・重心 剛体の傾きと転倒 定期考査	科学的探究に必要な下記概念（観察、実験に関わる内容をふくむ）の知識・技能を測る。 ・物理量と単位系 ・有効数字の考えかた ・合成速度、相対速度 ・等加速度直線運動 ・鉛直投射運動 ・水平、斜方投射運動 ・剛体の概念 ・力のモーメント ・モーメントの合成 ・偶力と重心	科学的探究に必要な思考力・判断力・表現力を、観察・実験を通じて、あるいはそれに代わる課題や設問を通じて、総合的に測る。	科学的に探究しようとする態度を養うため、単なる取組や態度のよし悪しだけではなく、自ら積極的に学習に取り組もうとする意欲をふまえたつちも、結果として学習成果が改善されているかを客観的に測る。	・授業内観察	○	○	○	7
第3章 運動量の保存 1. 運動量と力積 運動量・運動量と力積の関係 2. 運動量保存則 直線運動の場合・平面運動の場合 物体の分裂 3. 反発係数 床、2物体の衝突、斜め衝突 運動量と力学的エネルギー 第4章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 角速度・周期と回転数 加速度・必要な力 2. 慣性力 慣性力・遠心力 3. 単振動 単振動、変位・速度・加速度 必要な力、ばね振り子・単振り子 4. 万有引力 惑星の運動 定期考査	科学的探究に必要な下記概念（観察、実験に関わる内容をふくむ）の知識・技能を測る。 ・運動量という概念 ・力積と運動量の関係 ・運動量保存則とその応用 ・衝突のような瞬間的な現象に対する運動量の応用 ・運動量と力学的エネルギーの対比 ・円運動の概念 ・角速度、周期、回転数 ・加速度 ・円運動に必要な力 ・慣性力・遠心力 ・単振動とは ・必要な力 ・いろいろな単振動する物体 ・惑星の運動と必要な力	科学的探究に必要な思考力・判断力・表現力を、観察・実験を通じて、あるいはそれに代わる課題や設問を通じて、総合的に測る。	科学的に探究しようとする態度を養うため、単なる取組や態度のよし悪しだけではなく、自ら積極的に学習に取り組もうとする意欲をふまえたつちも、結果として学習成果が改善されているかを客観的に測る。	・授業内観察 ・小テスト ・定期考査 ・振り返りシート	○	○	○	6
第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 気体の圧力・ボイル・シャルルの法則 理想気体の状態方程式 2. 気体分子の運動 分子運動と圧力 平均分子運動と絶対温度 3. 気体の状態変化 内部エネルギー・熱力学第一法則 気体の状態変化 気体のモル比熱 熱機関と熱効率	科学的探究に必要な下記概念（観察、実験に関わる内容をふくむ）の知識・技能を測る。 ・万有引力と重力の関係 ・位置エネルギーと運動 ・気体の法則 ・ボイル・シャルルと理想気体 ・気体分子運動論 ・絶対温度との関係 ・内部エネルギー ・状態変化 ・ p - V 、 T - V 図 ・比熱	科学的探究に必要な思考力・判断力・表現力を、観察・実験を通じて、あるいはそれに代わる課題や設問を通じて、総合的に測る。	科学的に探究しようとする態度を養うため、単なる取組や態度のよし悪しだけではなく、自ら積極的に学習に取り組もうとする意欲をふまえたつちも、結果として学習成果が改善されているかを客観的に測る。	・授業内観察 ・小テスト ・定期考査 ・振り返りシート	○	○	○	7
定期考査					○	○		1

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学入門

教科： 理科 科目： 化学入門 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ D 組

教科担当者： (A組： 鈴木) (B組： 鈴木) (C組： 鈴木) (D組： 鈴木)

使用教科書： (化学： 数研出版) 使用教材： (フォトサイエンス化学図録： 数研出版、リードLight化学： 数研出版)

教科 理科 の目標： 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学入門 の目標： 化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を養う。	化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

指導項目・内容	評価規準			評価方法	知	思	態	配当 時数
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に					
第2章 物質の状態変化 1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	<ul style="list-style-type: none"> ・気体分子の熱運動に運動エネルギーや温度が関係することを理解し、それらを関連付けながら物質の三態変化について理解する。 ・状態変化に伴う熱の出入りとその名称について理解する。また、物質を構成する粒子間にはたらく力の大小と融点や沸点の関係についても理解する。 ・大気圧と気液平衡の概念を理解する。また、蒸気圧や蒸気圧と沸騰の関係性、物質の状態図についても理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蒸気圧曲線から沸点を調べることができる。 ・物質の状態図を用いて、圧力と温度から物質の状態を把握することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。 ・理解・学修の過程を振り返るとともに、科学的な考え方を活用しようとしている。 ・問題解決に当たって、粘り強く考え、解決策を導こうとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題、小テスト、定期考査	○	○	○	5
第3章 気体 1 気体の体積 2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力 4 実在気体	<ul style="list-style-type: none"> ・理想気体の体積や圧力、絶対温度の関係についてボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則が成り立つことを理解する。 ・ボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式が導かれることを理解する。 ・混合気体の分圧の法則について理解する。 ・実在気体と理想気体との違いについて理解し、その違いを踏まえ、実在気体を理想気体とみなして扱える条件についても理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則の公式を用いて未知数を求めることができる。 ・理想気体の状態方程式を利用することで、気体の分子量を求めることができる。 ・分圧と物質質量や体積、モル分率の関係について理解し、モル分率を用いた平均分子量の考え方や水上置換で捕集した気体の分圧についても理解する。 ・実在気体と理想気体との違いについてグラフを読み取り、適切に述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。 ・理解・学修の過程を振り返るとともに、科学的な考え方を活用しようとしている。 ・問題解決に当たって、粘り強く考え、解決策を導こうとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題、小テスト、定期考査	○	○	○	8
第1章 固体の構造 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・結晶の特徴と単位格子、配位数について理解する。また、アモルファス（非晶質）においては通常の結晶との違いを理解し、アモルファスの構造をもつ物質について理解する。 ・金属結晶、イオン結晶、分子結晶、共有結合結晶の構造と特徴について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属の結晶格子の構造から、原子半径や充填率、密度を計算する方法を理解する。 ・イオン結晶の結晶格子の種類や陽イオンと陰イオンの配列、イオン半径の比について理解する。 ・分子結晶や共有結合結晶の配位数や密度を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに、自己評価に基づき、改善を図ろうとしている。 ・理解・学修の過程を振り返るとともに、科学的な考え方を活用しようとしている。 ・問題解決に当たって、粘り強く考え、解決策を導こうとしている。 	○	○	○	8	
定期考査				○	○		1	

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

理科 科目 生物入門

理科 科目：生物入門

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 A・B 組

教科担当者：（A・D組：尾方）

使用教科書：（第一学習社「高等学校 生物」）

使用教材：（第一学習社「セミナー 生物・生物基礎 2025」）

教科 理科の目標：自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物入門の目標：生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	指導内容	評価規準			評価方法	知	思	態	配当 時数
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度					
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息し、生物は多様であることを理解する。 生物に共通してみられる特徴は、進化の過程で共通祖先から受け継がれてきたものであることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解している。 共通の祖先が長い年月の間に変化して、生物が多様化したことを理解している。 いろいろな細胞小器官の働きを概して理解している。 原核細胞と真核細胞の違いを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 細胞や生物体の成り立ちについて、観察に取り組むことができ、観察結果をレポートなどにまとめることができる。 生物にみられる特徴について説明できる。 すべての生物に共通する特徴がある理由を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の特徴について、主体的に見いだそうとしている。 観察結果をまとめ、積極的に説明しようとしている。 生物に共通してみられる特徴と、その由来について積極的に説明しようとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題での思考・判断・表現	○	○	○	7
	<ul style="list-style-type: none"> 代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。 光合成は、光エネルギーによってATPをつくり、このエネルギーによって有機物を合成することを理解する。 呼吸は酵素の働きによって有機物が段階的に分解されてエネルギーが取り出され、ATPがつけられることを理解する。 酵素の基本的な特徴について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解している。 光合成と呼吸では、共にATPの合成が行われていることを理解している。 酵素の特徴を理解し、代謝は、酵素によって円滑に進行することを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代謝とは何か説明できる。 光合成や呼吸において、ATPが利用される過程と、担う役割について説明できる。 複数の化学反応からなる代謝の過程が、酵素の働きかけで、順を追って円滑に進行するしくみを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料や実験結果からわかることを積極的に読み取っている。 代謝について、資料からわかることを積極的に説明している。 カタラーゼを用いた実験について、手順を考え積極的に関わっている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題での思考・判断・表現	○	○	○	6
	定期考査					○	○		1
	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子とDNAと染色体の関係を理解する。 DNAの構造の特徴を見だし、DNAの基本的な構造を理解する。 塩基の相補性にもとづいてDNAが複製されていることを理解する。 多細胞生物では、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。 間期の間にDNAが複製され、細胞分裂を通じて均等に分配されることで、細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子とDNAと染色体の関係、DNAの構造の特徴、DNAの半保存的複製を理解している。 細胞分裂時、DNAは2個の娘細胞に等しく分配されることを理解している。 間期の間にDNAが複製され、その後分裂期に移行することを理解している。また、細胞分裂の各過程で起こる現象を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基の相補性とDNAの構造との関連について説明できる。 DNAの構造の特徴を説明できる。 DNAの複製のしくみ（半保存的複製）を説明できる。 塩基の相補性に着目して、DNAの複製のしくみを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ヌクレオチド鎖の塩基どうしの結合にみられる特徴を、積極的に説明しようとしている。 DNAの複製について、積極的に説明しようとしている。 タマネギの根嚢を用いた細胞分裂の観察に学習事項と関連付けて積極的に取り組んでいる。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題での思考・判断・表現	○	○	○	7
<ul style="list-style-type: none"> 生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解する。 タンパク質は、多数のアミノ酸が鎖状につながってできたものであることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解している。 タンパク質は、多数のアミノ酸が鎖状につながってできたものであることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> タンパク質の様々な働きや、基本的な構造や性質について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> タンパク質の様々な働きや、基本的な構造や性質について、積極的に説明しようとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題での思考・判断・表現	○	○	○	6	
定期考査					○	○		1	
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に転写され、アミノ酸配列に翻訳される流れを理解する。 遺伝暗号表をもとに、あるmRNAが指定するアミノ酸配列を考察できる。 遺伝子はゲノムの一部であることを理解する。 全遺伝子が常に発現しているのではなく、細胞によって発現する遺伝子が異なっていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> RNAとDNAの違いを理解している。 転写と翻訳を理解している。 ゲノムの概念を理解している。 真核生物のゲノムと原核生物のゲノムの特徴を理解している。 同じ個体の細胞は、同じゲノムをもつことを理解している。 細胞によって発現する遺伝子と発現しない遺伝子が異なっていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子として働くDNAの塩基配列は、どのようにタンパク質の種類を決定するか説明できる。 遺伝暗号表をもとに、例示されたmRNAが指定するアミノ酸配列を正確に読み取ることができる。 塩基配列をもとにタンパク質が合成される過程を説明できる。 同じゲノムをもつ細胞でも形態や働きが異なる理由を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 塩基配列とアミノ酸配列の関係を、資料から積極的に読み取ろうとしている。 遺伝暗号表をもとに、例示されたmRNAが指定するアミノ酸配列を正確に読み取ろうとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題での思考・判断・表現	○	○	○	6
	<ul style="list-style-type: none"> 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体液の種類と関係について理解している。 赤血球、白血球、血小板、血しょうの特徴や働きを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 体液の種類と関係について説明できる。 赤血球、白血球、血小板、血しょうの特徴や働きを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体液の種類と関係、赤血球、白血球、血小板、血しょうの特徴や働きについて、考察し積極的に説明しようとしている。 	授業への取り組み状況、実験・観察レポートや課題での思考・判断・表現	○	○	○	7

高等学校 令和8年度（2学年用）

保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 A組～ F組

教科担当：（AB組：植木、石塚、佐藤、山村）（CDEF組：植木、石塚、佐藤、加藤）

使用教科書：（新高等保健体育（大修館書店）、図説新高等保健（大修館書店）、ステップアップ高校スポーツ2025（大修館書店））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに技能を身に付け、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的・計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	単元1：バレーボール 単元2：サッカー 単元3：テニス 単元4：ダンス 共通：体力テストの計測 【知識・技能】 ・基礎技能の習得 ・健康・安全の技能習得 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての課題発見 ・解決に向けた思考・判断・表現 【主体的に学習に取り組む態度】 ・継続して運動に親しむ	基礎技能・知識 ・パス、サーブ、スパイク ・パス、ドリブル、シュート ・サーブ、ストローク、ボレー ・ステップ ・基礎ルール、審判 指導形式 ・一斉指導 ・ペア・グループ学習 教具・教材 ・ボール、ゴール、ピンス、タイマー ・教科書、副教材 ・ICT端末 ・振り返りカード	【知識・技能】 ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。 ・健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度が身につけている。	○	○	○	42
	スキルテスト			○	○		1
2 学期	単元1：バレーボール 単元2：サッカー 単元3：テニス 単元4：ダンス 共通：体育理論 【知識・技能】 ・基礎技能の習得 ・健康・安全の技能習得 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての課題発見 ・解決に向けた思考・判断・表現 【主体的に学習に取り組む態度】 ・継続して運動に親しむ	基礎技能・知識 ・パス、サーブ、スパイク ・パス、ドリブル、シュート ・サーブ、ストローク、ボレー ・ステップ ・基礎ルール、審判 指導形式 ・一斉指導 ・ペア・グループ学習 教具・教材 ・ボール、ゴール、ピンス、タイマー ・教科書、副教材 ・ICT端末 ・振り返りカード	【知識・技能】 ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。 ・健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度が身につけている。	○	○	○	42
	スキルテスト			○	○		1

3 学 期	単元5：持久走 単元6：卓球 共通：体育理論 【知識・技能】 ・基礎技能の習得 ・ルールの理解 ・健康・安全への理解習得 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての課題発見 ・解決に向けた思考・判断・表現 【主体的に学習に取り組む態度】 ・継続して運動に親しむ	基礎技能・知識 ・各種ストローク ・基礎ルール、審判 ・ランニングフォーム 指導形式 ・一斉指導 ・ペア・グループ学習 教具・教材 ・ラケット、ボール、タイマー ・教科書、副教材 ・ICT端末 ・振り返りカード	【知識・技能】 ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。 ・健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度が身につけている。	○	○	○	18
	スキルステスト			○	○		1
							合計
							105

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教科：芸術

科目：音楽Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 E 組～ F 組

使用教科書：（ MOUSA2 教育芸術社 ）

使用教材：（ ①高校生のための音楽研究ノート ②音楽史を学ぶ（古代ギリシャから現代まで（教育芸術社） ） ）

教科

芸術

の目標：

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ の目標： 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	指導内容	表現			評価規準			評価方法	知	思	態	配当 時数	
		歌	器	創	鑑賞	知識・技能	思考・判断・表現						主体的に学習に取り組む態度
1 学期	①器楽 ヴァイオリン実技 ・歴史 ・各名称 ・正しいフォーム ・開放弦の演奏 ・ファーストポジション ・第九の旋律演奏 ・簡単な楽曲の演奏		○	○	○	・ヴァイオリンに触れ、実際に演奏してみる。 ・弦楽器（擦弦楽器）の表現について体験する。	・ヴァイオリンの完成に至る楽器の歴史に思いを馳せ、擦弦楽器について他の楽器との表現力の違いについて考える。	・授業に積極的に参加し取り組む。 ・美しいフォームで演奏を試みる。 ・楽しんで取り組める					4
	②楽典 ・リズム ・音程 ・調判定 ・調号 ・移調 ・音階（教会旋法など）				○	・高校生の音楽研究ノートを活用する。 ・楽典の基本的知識を身につける。 ・左記の内容を理解する。	・リズムを止まらずに正確に読むことができる。 ・音階のルールを理解できる。 ・初めて見る楽譜の調整を音を出さずに判定できる。	・美しく記入できている。 ・楽譜を読むことの大切さに気付き、深く読み取ろうとする。 ・リズムを正しく演奏できる。					6
	③音楽史 ・ルネサンス期の作品 モノフォニーからポリフォニーへ。 （ジョスカンデプレ、パレストリーナ） ・ルネサンスとバロックの各時代の作風の違いとは。 ポリフォニーかなホモフォニーの音楽へ ・教会旋法と現代の洋楽（身近な曲にも頻出？聞き分けクイズ） ・古典派～ロマン派へ（モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、リスト、ショパンなどの名作の鑑賞）		○		○	・1学年からの積み重ね学習を行う。 ・古代～バロック～と時代が進み、リート誕生の流れを掴む。 ・器楽ジャンルの鑑賞に取り組む。	・文学と音楽の融合を学ぶ。 ・時代背景と作曲家についての人物像をイメージする。 ・人類の文化としての音楽を歴史から学ぶ。	・ワークシートに積極的に感想を記入する。 ・想像したことを文章にすることができ。 ・スコアをみながら鑑賞する。					8
	④合唱コンクールに向けて ・発声 ・ハーモニー ・表現 ・ピアノとのバランス ・歌唱 ・合唱 ・アレレヤ（ラテン語での発声）		○	○		・楽譜を正しく読み、美しい発音で歌うことができる。 ・他パートの音をよく聞き、美しいハーモニーを求めて歌うことができる。	・他者と一つの音楽を作り上げるための工夫をすることができる。 ・他者と声質を合わせようと努める。 ・総合的なバランス感覚を身につけようとする。	・合唱のクオリティを高めようと努力する姿勢がみられる。 ・客観的に音楽表現を高めようと追及できる。 ・発声指導を受けた内容積極的に取り入れようとしている。					6
2 学期	⑤ピアノ実技 ・バイエル ・ハノン（音階） ・アンサンブル曲			○	○	・自分のパートの音を弾くことができる。 ・他のパートの音を聞きながら弾くことができる。 ・正しい姿勢を意識して演奏することができる。	・自分の骨格に対して適切な演奏ポジションを見出そうとし、無駄な力を入れずに適切な力加減で演奏しようとする工夫している。	・拍を合わせながら、みんなで一つの音楽を作ろうとしている。 ・自分のパートだけにとらわれず、他のパートの動きにも気を配りながら演奏しようとしている。					10
	⑥イタリア古典歌曲を歌おう ・イタリア歌曲の歌唱 ・歌曲の世界を掘り下げよう ・コンコーネで和声感覚を養う。		○		○	・イタリア歌曲を適切な音量で美しく歌唱する。 ・楽曲分析を行う。	・イタリア歌曲の楽曲を題材に込められた意味を深く解釈し劇を創作する。初めて楽曲と出会う人にわかりやすく伝える内容を考える。互いの演奏を評価し合う。	・他のグループを評価することで、他者の感性に触れる。					6
	⑦音楽史 ・オペラの歴史（アリアを味わおう） モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナーのオペラより ・ベートーヴェンについて 生涯と作品をたどる ・リグティ コンテンポラリーミュージック				○	・古典、ロマン派、現代の各時代の名曲とともに作曲家と作品を学ぶ。	・音楽の発展と時代背景の関連を意識的に学習する。 ・各時代の生み出した人間の感性を音楽から学び取る。	・楽器の歴史を学ぶと、金属の歴史、民俗の歴史、鉄の歴史に関連する。そこから誕生した楽器に対する視点を持つ。 ・音楽史上重要な大作曲家を軸に音楽史を深く学ぶ。					10

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者： 高野 史子

使用教科書：（「家庭基礎 自立・共生・創造」 東京書籍）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と共同し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な日飛び地を共同し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>A 単元：家庭科の学び方</p> <p>【知識及び技能】 これからの自立した生活の意義について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題について問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組む</p>	<p>・指導事項</p> <p>1. 家庭科の学び方</p> <p>2. 生活にいかそう・自分の意見を文章にまとめよう</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 これからの自立した生活の意義と実践方法について理解している。 【思考・判断・表現】 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題について問題を見出し、高おきつてことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	1
<p>B 単元：生涯を見通す</p> <p>【知識及び技能】 人の一生について、自己と他者、社会とのかかわりから様々な生き方があることについて理解する。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活および職業生活について問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組む。</p>	<p>・指導事項</p> <p>1. 人生を展望する</p> <p>2. 目標をもって生きる</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 生涯を見通して、自己と他者、社会とのかかわりから様々な生き方があることについて理解している。 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 生涯を見通した事故の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活および職業生活について問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	2
<p>C 単元：人生を作る</p> <p>【知識及び技能】 家族・家庭の機能と家族関係について理解を深める 家族家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任を持って行動することについて問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組む。</p>	<p>・指導事項</p> <p>1. 人生をつくる</p> <p>2. 家族・家庭を見つめる</p> <p>3. これからの家庭生活と社会</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 加須港・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。 家族家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任を持って行動することについて問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	7
<p>D 単元：子どもと共に育つ</p> <p>【知識及び技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解する。 乳幼児と適切にかかわるための基礎的な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、子どもの生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組む。</p>	<p>・指導事項</p> <p>1. 命をはぐくむ</p> <p>2. 子どもの育つ力を知る</p> <p>3. 子どもとかわる</p> <p>4. これからの保育環境</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解している。 乳幼児と適切にかかわるための基礎的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、子どもの生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	8
<p>E 単元：超高齢社会を共に生きる</p> <p>【知識及び技能】 高齢者を取り巻く社会環境やこれからの心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護などについて理解する。 生活支援に関する基礎的な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について課題の解決に主体的に取り組む。</p>	<p>・指導事項</p> <p>1. 超高齢社会・大衆長寿社会の到来</p> <p>2. 高齢期の心身の特徴</p> <p>3. これからの超高齢社会</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 高齢者を取り巻く社会環境や高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護などについて理解している。 生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	7
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>F 単元：共に生き、共に支える</p> <p>【知識及び技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支えあつて生活することの重要性について問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について課題の解決に主体的に取り組む。</p>	<p>・指導事項</p> <p>共に生き、共に支える</p> <p>1. 私たちの生活と福祉</p> <p>2. 社会保障の考え方</p> <p>3. 共に生きる</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 【思考・判断・表現】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支えあつて生活することの重要性について問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人と共同し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	4

2 学 期	Lesson5						同格を導く接続詞 that, 関係副詞の非制限用法に関する事項を理解している。	日常的、社会的な話題の説明を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点を的確に捉えている。また、本書で学習した内容について、自身の考えや意見を明確な理由や根拠とともに、詳しく伝えている。	日常的、社会的な話題についての内容を理解しようとしている。また、学習した内容を相手に配慮しながら、主体的、自律的に伝えようとしている。理解した情報ややり取りをした内容について効果的な理由や根拠とともに、まとまりのある文章を書こうとしている。	定期考査 課題テスト 小テスト 小テストに取り組む態度 課題・レポート プレゼンテーション 振り返りシート 自己評価・他者生徒評価					10	
	Lesson6						同格を導く接続詞 that, 関係副詞の非制限用法に関する事項を理解している。多様な英文から情報を読み取り、整理しながら理解したり、自身の考えや意見を学習した語句や文を適切に活用して、発信したりする技能を身につけている。		継続的な学習や活動の成果、結果から自身でフィードバックを行い、個々の目標達成に応じて改善を試みようとしている。						10	
	Cutting Edge Green Chapter12. 13. 14						・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。									9
	定期考査															1
2 学 期	Lesson7						部分否定、If S' were to V' , S would V ~に関する事項を理解している。付帯状況の with, 受け身の分詞構文に関する事項を多様な英文から情報を読み取り、整理しながら理解したり、自身の考えや意見を学習した語句や文を適切に活用して、発信したりする技能を身につけている。	日常的、社会的な話題の説明を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点を的確に捉えている。また、本書で学習した内容について、自身の考えや意見を明確な理由や根拠とともに、詳しく伝えている。	日常的、社会的な話題についての内容を理解しようとしている。また、学習した内容を相手に配慮しながら、主体的、自律的に伝えようとしている。理解した情報ややり取りをした内容について効果的な理由や根拠とともに、まとまりのある文章を書こうとしている。	定期考査 課題テスト 小テスト 小テストに取り組む態度 課題・レポート プレゼンテーション 振り返りシート 自己評価・他者生徒評価					14	
	Lesson8								継続的な学習や活動の成果、結果から自身でフィードバックを行い、個々の目標達成に応じて改善を試みようとしている。						14	
	Cutting Edge Green Chapter15. 16						・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。									6
	定期考査															1
3 学 期	Lesson9						倒置、完了形、分詞構文に関する事項を理解している。複合関係代名詞、二重否定を理解している。多様な英文から情報を読み取り、整理しながら理解したり、自身の考えや意見を学習した語句や文を適切に活用して、発信したりする技能を身につけている。	日常的、社会的な話題の説明を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点を的確に捉えている。また、本書で学習した内容について、自身の考えや意見を明確な理由や根拠とともに、詳しく伝えている。	日常的、社会的な話題についての内容を理解しようとしている。また、学習した内容を相手に配慮しながら、主体的、自律的に伝えようとしている。理解した情報ややり取りをした内容について効果的な理由や根拠とともに、まとまりのある文章を書こうとしている。	定期考査 課題テスト 小テスト 小テストに取り組む態度 課題・レポート プレゼンテーション 振り返りシート 自己評価・他者生徒評価					12	
	Lesson10								継続的な学習や活動の成果、結果から自身でフィードバックを行い、個々の目標達成に応じて改善を試みようとしている。						13	
	Cutting Edge Green Chapter17. 18						・語句の意味、文法事項および発音を定着させる。									6
	定期考査															1
															合計	
															140	

年間授業計画

高等学校 令和8年度 (2学年用)

教科 外国語

科目 論理・表現Ⅱ

教科: 教科 外国語

科目: 科目 論理・表現Ⅱ

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者: (A組: 大久保 B組: 齊藤 C組: 松田 D組: 齊藤 E組: 工藤 F組: 齊藤)

使用教科書: (Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace (啓林館))

使用教材: (Vision Quest Grammar47, Vision Quest Grammar47 Workbook(以上啓林館)、Next Stage英文法・語法問題(桐原書店))

教科 教科 外国語 の目標: 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 科目 論理・表現Ⅱ の目標: 「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ、「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動を行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりすることができる力を養う。

話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。	日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。	日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

指導内容	領域					評価規準			評価方法	知	思	態	配当 時数
	聞	読	話 や 発	書	書	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度					
Lesson 1 What is your future goal?						主語の選択や主語になる名詞句、形式主語の概念を理解し、適切な文を組み立てる。	自分の目標と達成のために必要なことについて、文と文のつながりを意識して書いて伝える。	子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方に注意し書こうとしている。	定期考査 課題テスト 小テスト 小テストに取り組む態度 課題・レポート 振り返りシート 自己評価・他者生徒評価				6
Lesson 2 What school events do you have?						自動詞と他動詞を使い分けたり、群動詞を適切に用いたりして文を組み立てる。	自分の高校の行事について紹介する文章を、パラグラフの構成に意識して詳しく書いて伝える。	学校で新しい友達を作る方法について書かれた文章を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解し書こうとしている。				6	
1 学期 定期考査													1
Lesson 3 Who is the best athlete?						現在・過去・未来を表すために、適切な動詞の形や文の構造を用いる。	自分の好きなアスリートと業績について、パラグラフの構成に意識して詳しく書いて伝える。	スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解し書こうとしている。	定期考査 課題テスト 小テスト 小テストに取り組む態度 課題・レポート 振り返りシート 自己評価・他者生徒評価				6
Lesson 4 Is social media safe?						義務・必要・推量を表すために、助動詞を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。	ソーシャルメディアの利点と欠点の比較について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書いて伝える。	ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解し書こうとしている。				6	
定期考査													1
Lesson 5 How does overusing energy affect us?						形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。関係代名詞や関係副詞を用いた文の構造を理解し、文を組み立てる。	エネルギーの使い過ぎによって引き起こされる問題について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書いて伝える。訪れたい国とその国の文化について、自身の主張や理由の根拠を示して、詳しく書いて伝える。	エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解し書こうとしている。異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解し書こうとしている。	定期考査 課題テスト 小テスト 小テストに取り組む態度 課題・レポート 振り返りシート 自己評価・他者生徒評価				6
Lesson 6 What are some culture differences?													6
Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English?						形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。	日本の第二公用語としての英語の導入の賛否に関する記事を読んで、文章全体の概要と構成を理解し、まとめる。	第二か国語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解し書こうとして				7	

年間授業計画 様式例

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

総合的な探究の時間 科目 総合的な探究の時間

教科： 総合的な探究の時間

科目： 総合的な探究の時間

単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：（ A組：尾方 ） （ B組：杉村 ） （ C組：植木 ） （ D組：大久保 ） （ E組：松田 ） （ F組：高野 ）

使用教科書：（ ）

教科 総合的な探究の時間

の目標：

【知識及び技能】 これまで学習した各教科・科目の知識・技能を基礎に、持続可能な社会の形成に求められる現状と解決すべき課題を理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】 持続可能な社会の形成を担うリーダーに求められる資質・能力・態度とは何かを探究し、自己の在り方・生き方や進路についての考察を深めることができる。

【学びに向かう力、人間性等】 主体的な探究に粘り強く取り組み、他者と協働してより良い解決策を生み出し、実践することができる。

科目 総合的な探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・通常の文章のほか、図やグラフ、表等テキストから情報を取り出し、理解・解釈する力を身につける	・演繹的思考・帰納的思考・類推等の方法を使い、筋道を立てて考える力を身につける ・自らの考えを記述・論述するとともに、わかりやすく他者に伝える方法を身につける	・自己の学習目標を設定し、計画を立てて学習に取り組むとともに自己評価に基づき改善する ・問題解決にあたって、粘り強く考え、よりよい解決策を導く

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	個人探究（学問的関心と進路選択） <導入> 探究学習についてのオリエンテーション <展開1> 論文第1章作成・校外活動	○生徒の個人の学問的関心と進路選択における連携について考えさせる。 ○ワークシートならびにレポート提出を次の内容で行わせる： 「自らの進路と学問」 「先行研究」 「個人探究の問いと仮説の設定」 「探究手法の検討と決定」 「図書館や論文検索など探究活動に必要なリソース」 「大学キャンパス訪問」 「オープンキャンパスにて体験授業」	<観点> ①知識・技能 ②思考・判断 ③主体的に取り組む態度 ○レポート・論文、発表や討論、学習に対する取り組みの様子から総合的に評価する。 ○生徒の自己評価を活用する。 ○活動の状況を教師が観察して評価する。 ○論文やチュートリアルなどから、自己理解を深め、適切に自己表現できたかを評価する。	○	○	○	13
	<中間報告1> 論文第1章の提出と中間発表 <展開2> 修学旅行先の自然・歴史・文化を学ぶ <中間報告2> ポスター提出と英語によるプレゼンテーション <展開3> 論文第2章作成 <中間報告3> 論文第2章の提出	○個人論文の第1章（探究テーマへの関心、問いと仮説、探究手法）を作成・提出させ、その内容についてプレゼンをさせる。 ○修学旅行先の自然・歴史・文化の研究：生徒の興味・関心等に基づいて設定した課題ごとにグループを作り、計画を立てる中から問題解決能力を高めさせる。 ○修学旅行先の探究結果を英語にてまとめさせ、パワーポイントを作成、英語にて発表させる。 ○個人論文第2章（本論）を作成させる。 ○個人論文第2章を提出させる。	○	○	○	13	
3 学期	<展開5> 論文第3章結論等を作成と提出 <展開6> 個人探究論文の提出 <展開7> 成果発表	○個人論文第3章（結論）、並びに課題点を作成させ、提出させる。 ○校正を経て、1年の個人探究の成果として論文を提出させる。 ○個人探究の成果として、プレゼン発表させ、自己評価と他者評価を行い、進路への学問的関心を深めさせる。	○	○	○	9	
	合計						